

とらっく大賞に定倉協



5年間保管する運用となっていた備蓄米倉庫①。放出の流れを受け相次いで空に②



(左から) 安田前副理事長、山本副理事長、西宮前副理事長、太宰理事長、山口副理事長、河崎専務

2025年度のとらっく大賞は、全国定温倉庫協同組合(太宰第一理事長)に決まりました。「令和のコメ騒動」を受け、政府は備蓄米の運用方針を見直し累計60万トンを放出しました。これにより、見込んでいた保管料を突如得られなくなった倉庫会社の危機的状況を救うため、定倉協は粘り強く支援策の要望活動を展開。11月に政府はついに逸失保管料の救済措置を示し、26年3月までの減収分を補償することになりました。

備蓄米は5年間保管し、その後は飼料などとして売却。毎年20万トンを増して100万トンを適正水準に運用します。放出は、不作が続いた場合や大規模災害発生時などとなっていました。コメ騒動に伴い、江藤拓農林水産相(当時)は流通の目詰まりでも放出できるように運用指針を見直し、25年3月から30万トンを順次出庫しました。

通常業務のさなかでの大量放出に伴う出庫作業や輸送手段の確保、精米作業などの対応に追われた現場は混乱に陥り、政府の想定通りには市場に出回りませんでした。倉庫業者は当て込んでいた保管料を得られなくなりました。さらに、放出した同じ量を「1年以内」に買い戻す方針は「5年以内」に見直されました。

政府備蓄米放出受け

逸失保管料支援を要望 倉庫会社の危機救う

その後、農水相に小泉進次郎氏が就き、放出の流れは加速。備蓄米を保管していた倉庫が相次いで空になり、その上、次に入庫できる見通しも立たない状況では、もはや経営が成り立ちません。逸失した保管料は、1カ月当たり2億3千万円超に及ぶとの試算もありました。また、別の工程で止まっているにもかかわらず「倉庫業者の出庫が遅い」と指摘する声もありました。実際は、通常業務を行いながら備蓄米放出作業をしており、対応に追われていました。

定倉協はこの間、要望活動を展開。関係省庁や議員会館を朝から夕方まで回る日もありました。5月の自民党の物流倉庫振興推進議員連盟(浜田靖一会長)の総会で、太宰理事長は備蓄米を保管する倉庫業者の窮状や混乱した現場の状況を説明しました。これを受け、同議連は政府に対して「1万ト当たり月額750万円」とする支援措置を盛り込んだ緊急決議を採択しました。

その後、参院選を経て石破茂首相が退陣を表明。自民党の総裁選が行われることになり、なかなか支援策が打ち出されないまま月日が流れました。定倉協は11月にも同議連に要望書を提出し、同様の緊急決議が採択されました。

そしてついに11月28日、逸失保管料と経費に対して一定の補償をすることが閣議決定されました。太宰氏をはじめとする関係者の努力が花開き、全国の倉庫業者に減収分の補償が行われることになりました。

広がった連携の輪

定倉協の太宰第一理事長は、備蓄米の保管料に対する支援が決まったことに関し、「定倉協のメンバーに加え、関係する皆さんが汗をかいてくれた結果」と述べ、多くの関係者が一丸となって取り組んだ成果だという点を強調する。

政府備蓄米の放出を受け、定倉協は昨年4月、会員企業の実情を知るためにアンケートを実施した。「苦境を把握して発信していくのが重要だと考えた(河崎専務)」。その後、定倉協のメンバーで国会議員や行政に対する陳情活動を推進した。中心となったのは太宰氏(白石倉庫と、山口広志(山口倉庫)、山本章雄(伏見倉庫)の両副理事長、前副理事長の西宮公平(秋田海陸)、安田靖平(大黒倉庫)の両氏。特に4、5の両月は関係省庁や議員会館に何度も足を運び、現状を説明する。とともに支援を訴えた。ターニングポイントとして、太宰氏は10月に

自民党の物流倉庫振興推進議員連盟が財務相に要望してくれたこと」を挙げる。その時点で、同じ業界団体として日本倉庫協会の藤倉正夫会長が備蓄米倉庫を視察するなど連携の輪は着実に広がっており、倉庫連連の総会では日倉協と定倉協が共同で要望書を提出。今回の補償につながった。

「令和のコメ騒動」を受け、政府は累計60万トンの備蓄米を放出。この経緯もあり、太宰氏をはじめとする執行部は多くの関係者に対して感謝の気持ちを示す。「定倉協の役員は逃げずに対応し、組合員も賛同してくれた。それだけでなく、日倉協や倉庫業青年経営者協議会(谷川隆史会長)の仲間、受託事業者の各社や各地域の商工会議所も理解してくれて、それぞれの立場で同じ方向を向いて動くことができた」。併せて、「倉庫連連の浜田会長をはじめとした国会議員と、それを受け止めてくれた農水省の職員にも感謝を申し上げたい。「備蓄米物流支援室」を設けた国土交通省も、親身に相談に乗っていただいた」と振り返る。

備蓄米を保管する重要性と、収受すべき保管料を失ったという現状を伝え、多くの関係者と連携して実際の支援につなげた意義は大きい。それでも、補償は26年3月末までで4月以降は対象ではない。現状でも空いたままの倉庫は多く存在しているため、早期の買い戻しが必要になる。加えて、適正料金の設定など、定倉協では引き続き、業界の環境改善に向けた要望活動を展開する。太宰氏は「まだまだ課題は残さ



「令和のコメ騒動」を受け、政府は累計60万トンの備蓄米を放出。この経緯もあり、太宰氏をはじめとする執行部は多くの関係者に対して感謝の気持ちを示す。「定倉協の役員は逃げずに対応し、組合員も賛同してくれた。それだけでなく、日倉協や倉庫業青年経営者協議会(谷川隆史会長)の仲間、受託事業者の各社や各地域の商工会議所も理解してくれて、それぞれの立場で同じ方向を向いて動くことができた」。併せて、「倉庫連連の浜田会長をはじめとした国会議員と、それを受け止めてくれた農水省の職員にも感謝を申し上げたい。「備蓄米物流支援室」を設けた国土交通省も、親身に相談に乗っていただいた」と振り返る。

まだまだ残る課題

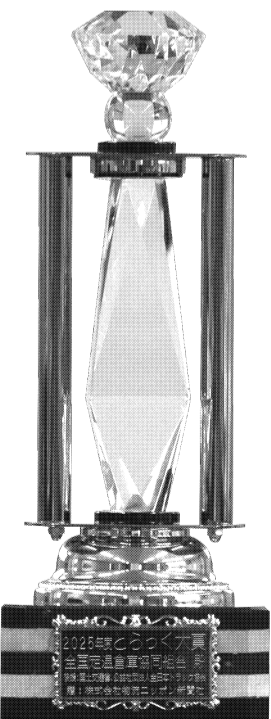
備蓄米を保管する重要性と、収受すべき保管料を失ったという現状を伝え、多くの関係者と連携して実際の支援につなげた意義は大きい。それでも、補償は26年3月末までで4月以降は対象ではない。現状でも空いたままの倉庫は多く存在しているため、早期の買い戻しが必要になる。加えて、適正料金の設定など、定倉協では引き続き、業界の環境改善に向けた要望活動を展開する。太宰氏は「まだまだ課題は残さ

れている」と指摘する。農水省では民間備蓄を進めるなど、備蓄米に関する動向は今後も社会的

注目を集める。定倉協をはじめとした業界団体の取り組みの重要性も高まっている。

歴代受賞者

13年度	全日本トラック協会青年部会
14年度	国土交通省自動車局「トラガール促進プロジェクトチーム」
15年度	北海道トラック協会
16年度	滋賀県トラック協会
17年度	啓和運輸
18年度	宮田運輸
19年度	F-LINE
20年度	ネクストロジスティクスジャパン
21年度	日本貨物運送協同組合連合会
22年度	宮城県倉庫協会
23年度	坂本克己氏
24年度	石川県トラック協会



2025年度とらっく大賞は 全国定温倉庫協同組合に決定しました!!

とらっく大賞規定

(名称)

第1条 この顕彰は、とらっく大賞という

(目的)

第2条 トラック運送事業の健全な発展、向上に寄与した個人または組織を表彰する。

(事業)

第3条 顕彰は、原則として1事業年度1件とする。

(顕彰の方法)

第4条 顕彰に際しては、トロフィーを授与するとともに、『物流ニッポン』の紙面で発表する。

後援：国土交通省、公益社団法人全日本トラック協会 事業主体：株式会社物流ニッポン新聞社